広報 しらたか No.1206 2017-4-13

＼地域おこし協力隊が見つけた／

しらたかの鉄人！達人！

❶公演に合わせ、週１回１時間程度練習。「よさこい」や「おどる！シラタカ・レッド」など、現在のレパートリーは７つ
❷地域おこし協力隊（前列３人）を巻き込むことで活動の幅を拡大中　❸衣装や小道具は全て手作り。古着屋や100円均一ショップで材料を調達し、アレンジしている

「ずっこけ一座」
紺野 里子さん（萩野・62歳）

「地域に根付く楽しさを残したい」

近頃、町内のサロンやイベントにひっぱりだこの〝ずっこけ一座〟。その代表を務めるのが里子さんです。

きっかけは平成25年7月。萩野地区のサロンに出演していた団体を見て「自分たちにもできるんじゃないか」と思ったそうです。そして、翌々月の9月に地元の仲間4人と結成。「みんなズッコケてるから」との理由で、ずっこけ一座と命名されました。

結成当初は「具体的に何をするか全く決めていなかった」と言いますが、持ち前の明るさで「とりあえず踊ってみっかー」と提案。「最初はとにかく動きを覚えるのに必死だった」と笑いながら当時のことを振り返ります。

それから3年。地域おこし協力隊から新たに3人が仲間に加わり、昨年度は各地区のサロンや敬老会など計6公演に出演。今月24日には東高玉のサロンに出演予定です。

「みんなに楽しんでもらえるし、せっかくだからこれから先も残していきたい」と話す里子さん。「ずっこけ一座という名前を覚えて、興味を持ってもらいたいね。若い人にもどんどん参加してもらって、地域に根付いていったらうれしいな」

一座の名のとおり、ちょっとお茶目なお母さん。地域のために楽しみながら笑いを提供しています。サロンや敬老会で見ている人が笑顔になると、踊っている方も笑顔になって幸せな空間ができます。これぞ地域おこしの原点だなと思います。

地域おこし協力隊
遠藤真弓さん

SELF JUDGE 編集後記

▼早いもので、私も広報担当となって3回目の春を迎えました。最近、町民の方から「写真うまくなったね」「前より読みやすくなったよ」と声をかけられたことがきっかけで、一番最初に作った一冊を読み返してみました。文章を書くのが苦手で、写真の知識もまったくない中ようやく完成した一冊。手元に届いたときの感動を思い出しました。3年目の今年も初心を忘れず、新しいことにも積極的にチャレンジしていければと思います。また一年、どうぞよろしくお願いいたします。

▼皆さんすでにお気づきかもしれませんが、「広報しらたか」の紙面の色を青と黒の2色刷りから赤と黒の2色刷りに変更しました。これは、青い文字がかすんで見えにくいというご意見をいただいたことと、「日本の紅（あか）をつくる町」をさらにアピールしていくことを目的としてのものです。慣れるまで若干の違和感があるかもしれませんが、ご理解をお願いいたします。

（てづか）

★広報しらたかは再生紙を使用しています。

編集と発行／白鷹町企画政策課
〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833
☎0238(85)2111 [FAX]0238(85)2128
ホームページ：http://www.town.shirataka.lg.jp
E-mail:kikaku@so.town.shirataka.yamagata.jp